

2023年度第3回6月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2023年6月21日（水）
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数2名
出席総数6名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	大森玲子
	委員	石松英昭
	委員	和久井要子
	委員	若井明香
	委員	鈴木正人

4. 議 題

(1) CRT60 周年ラジオスペシャル

「共生社会への道～過去の災害から学ぶ～」について

放送日 5月28日 日曜日

(2) その他

5. 議事内容

(1) CRT60 周年ラジオスペシャル

「共生社会への道～過去の災害から学ぶ～」について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明：とちぎボランティアNPOセンターの皆さんが災害ボランティア活動を支援した時に起こった問題の中に、「言語・文化の相違からくる問題」と「様々なジェンダー問題」がありました。前半は「外国人との協働・共生」をテーマに、アジア学院で被災した外国人の皆さんはじめ、栃木県国際交流協会（T I A）の取り組み、T I A外国人キーパーソンによるボランティア活動を取り上げて、日本人と外国人が共に暮らすために必要なことは何かを考えています。後半のテーマは、「性的マイノリティの皆さんとの共生」です。災害時、特に目に見えない困り事を抱えている方への配慮が課題となっています。性的マイノリティの皆さんが抱えている不安や悩み、男女共同参画財団やL G B T支援団体S - P E Cの取り組みを取り上げ、様々なジェンダー問題への向き合い方を考えています。これらを通して、スクールカウンセラーやキャリア・ジェンダー専門の先生に、これからの社会において、「協働・共生」を実現するために乗り越えていかなければならないことを紐解いてもらいます。外国人の皆さんにも伝わるよう、音楽は栃木県出身で世界的なサクソプレーヤー渡辺貞夫を使用し、ナレーションはなるべく簡潔にゆっくり話しています。

各委員からは、

○60周年の記念番組として、災害弱者としての「外国人」や「性的マイノリティ」を取り上げ、災害時の課題から、共生社会の問題を改めて考える良い番組であると思った。特に、外国人は、日本人以上に地震や大雨による災害を経験することは少なく、また、番組でも話していたとおり、日本語が理解できない方も多いことから、災害時には情報入手が困難であり、場合によっては命の危険にさらされる場合もある。この番組を聞いて、一人でも多くの県民がこうした実情を知り、今後発生する災害時に、支援していく必要があると感じてもらえたらと思ったところである。なお、後半の性的マイノリティについては、「災害」というキーワードから少しずつ離れていったと感じた。現時点で災害時の課題からでは、性的マイノリティとの共生を結びつけて放送することは、事例をつかむことが難しいことから、困難ではないかと思った。

○阪神大震災、東日本大震災を通して新聞記事や番組報道などでかなり私的に触れてきた話題だったのでおさらいをしたという感じがあった。後半の性的マイノリティの話題は、番組タイトルの災害について学ぶとは若干話題が離れていると感じたし、言い回しが上から言われている感じがした。

○災害時の要配慮者について、農水省から出されている「要配慮者のための災害時に備えた食品ストックガイド」には、宗教的背景から忌避食がある対象者のことは触れられていない。本番組を通して、災害時における情報やガイドブックは多言語で展開される必要があることを改めて感じ取った。日本人コミュニティに入ることのできる場合は情報取得が比較的やすいが、そうでない場合は避難も遅れる可能性がある。当事者の声を番組を通して伝えることで、周囲の人々が自分事として捉え、外国人を支援し、孤立させない取り組みが必要だと実感した。他にも性的マイノリティをはじめ、要配慮者への支援は、行政だけでなく地域のつながりを通して培っていくことも大切だと思った。大変、学びの多い番組内容でした。

○共生社会を築くために現代社会の中で災害時に何が必要かどうか、日本人の人権に対してどのように取り組むのかを考えさせられる番組であった。災害が起こった際に、外国の方が日常生活していくにあたりもっと日本語表記だけではなく外国語表記などがあつたほうが良いのではとか改めて考えさせられた。

○このようなテーマを取り上げる事が地域地元密着のラジオ局だからこそできるテーマだと思った。文化の違いや性的マイノリティである方達が災害を通してこのような問題に直面していることを知りハッとさせられた。ただ音声編集の部分で音の大きさのバランスが気になった。

○災害を通じた外国人との関わりなど今まで全く想像もしなかった。この番組を通してその意識付けができたので聴いて良かったと思った。

○災害時、素早く対処できる地元ラジオ局の存在価値は大きい、栃木放送が共生社会への道筋を示すべく企画したことは意義がある。過去の災害から学び抽出した「言語とジェンダーの問題」と「外国人との協働・共生」「偏見と差別」に向き合った番組には少々単純と思うところもあつたが改めて考えさせられナレーションがとても聴きやすかつた。ただ1時間の番組で色々詰め込み過ぎた感が否めない。

○内容的にシリアスな番組だったので1時間という長さ、日曜日15時のリスナー層に合っているのか疑問に思った。テレビなど映像ありきの番組に慣れているので登場人物が多いと、今、誰が話しているのかなど分からなくなるのももう少しラジオ番組ならではの詳しい描写が必要なのではないかと思った。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2023年7月23日）
- ② 当社のホームページに掲載（2023年7月27日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2023年7月23日～）

以上